

徳島県小松島市 有限会社榎山農園

代表取締役：^かしやま ^なおき 榎山 直樹 氏

作付面積：84.6ha（水稻57.0ha、大豆13.0ha、
もち麦13.0ha、小松菜0.8ha、トマト
0.7ha、菌床シイタケ0.1ha）



<取組概要>

高糖度トマトを中心に、水稻、麦・大豆、コマツナ、菌床シイタケを生産する農業法人。先代社長が先端技術を駆使してトマト栽培を始めた後、離農する農家から農地を引き受けながら、作目と規模を拡大して複合経営を実現。

引き受けた圃場で湛水性が悪い場合は、麦・大豆を栽培したり、ハウスを建設してコマツナを栽培。トマトの残渣は水稻の堆肥に、シイタケの廃菌床はコマツナの堆肥に用いるなど関連付けた栽培を展開。

高糖度トマトでは、いち早く糖度センサーがついたカメラ式選別ラインを導入し、糖度別に3階級の独自規格を設けることで差別化を図って販売。価格帯を複数設けることで消費者や外食産業のニーズに対応。

現社長による積極的な営業により、東南アジアなどの海外や国内の大都市圏への販路を拡大。最上位の高糖度トマトは「珊瑚樹(さんごじゅ)」としてブランドを確立。

農地中間管理機構を活用しながら、県東部4市にわたって条件を問わずに農地を引き受けることで、「田んぼのかけこみ寺」として地域農業の維持・発展に貢献。規模拡大の一方でICT技術を積極的に取り入れ、経営の合理化を徹底。